

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	牛井並盛
タイトル	スーパーリージョナルバンクの存続可能性		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー	馬詰莉空、太田光祐 金治凌都 安原龍一 久田怜弥 濱藤昂太郎		
研究計画内容	<p>【研究の背景と目的】 現在、マイナス金利政策や地方の人口減少などにより、地域銀行の利益低迷が続いている。我々は、地域銀行は一時的な苦境に陥っているものが多いものの、地域銀行という業種は社会的に存続価値があると考えている。本研究では、地方銀行が政府の援助なしに存続できるかを調べていきたい。長年、地域銀行存続の方法に関する研究が行われてきたが、未だ妥当な解決策は提示されておらず、唯一挙げられた合併・統合は現実には独立禁止法の対象となり認められなかったり、実行されなかったケースが少なくないと考えられる。しかし、2020年11月27日に地銀合併特例法が施行され、地銀再編へのハードルが低くなった。その一方で、合併後の人事問題・システム問題など新たな問題が生じるようになった。では、長期的に存続していくためには、どのようにすればよいのか。私たちは、合併前後の株主価値比較を行い、合併の有用性を検証する。</p> <p>【研究内容・期待される成果】 地域銀行の損益計算書、貸借対照表、各銀行の有価証券報告書、10年物国債金利、ベータ値、マーケット・リスクプレミアムより、エクイティCF法を用いて、エクイティCFの算出、株主資本コストの算出を行い、株主価値を求めていく。そして、合併案の発表から合併までの株主価値の変化を分析することで、株主が合併に対してどこまで期待しているのかを読み取ることができる合併発表後の株主価値、合併直前の株主価値、合併後の株主価値を比較することで、合併統合が本当に利益改善につながっているのかを検証していきたい。そして、合併後からの株主価値の分析を行うことで、各地域銀行が合併統合を通してどの程度再編することができたのかを知ることができる。また、合併統合以外の再編を行っている地域銀行の株式価値とも比較していくことで、合併の地銀再編における有用性を確かめていきたい。</p> <p>[参考文献]</p> <p>片岡理紗「銀行の企業価値評価」（東京理科大学工学部、https://www.msi.co.jp/splus/events/student/2006pdf/st06kataokadoc.pdf、2021年9月28日）</p> <p>鈴木一功「銀行の価値評価(Valuation)手法～理論と実務～」(PwC、https://www.pwc.com/jp/ja/japan-pwc-research-institute/assets/pdf/bankvalue-rep20120112-05.pdf、2021年10月13日)</p>		